

◆政治・経済◆ 科目別講評

(1) 出題方針

「政治・経済」の問題は、大問〔Ⅰ〕〔Ⅱ〕〔Ⅲ〕で構成される。毎年、「現代の政治（法律を含む）」「現代の経済」「現代社会の諸課題」の三つの領域を中心に、特定分野に偏らない出題を心がけている。出題は、教科書の記載内容に準拠しながら、高等学校の教育水準を超えない範囲で、次の2つの点を問うように意識している。

- ①「政治・経済」に関する正確な知識を修得しているか。
- ②政治、法律、経済など複数の分野を関連づけながら、現代社会におけるさまざまな課題について考える能力が身についているか。

なお、「政治・経済」という科目の特性をふまえ、教科書によってはほとんど記載されていないような内容についても、それが教科書の内容に沿ったものであれば、出題することがある。

(2) 解答状況および解説

「政治・経済」の各日程の受験者と合格者の平均得点率は、次のとおりであった。

	受験者	合格者
2月5日 全学部日程(文系)	70.6%	82.3%
2月6日 文学部、経済学部	64.2%	76.2%
2月7日 政策学部、文化情報学部(文系型)、 スポーツ健康科学部(文系型)	59.3%	73.3%
2月8日 法学部、グローバル・コミュニケーション学部	58.6%	73.0%
2月9日 神学部、商学部、心理学部、グローバル地域文化学部	54.9%	67.3%
2月10日 社会学部	69.8%	80.2%

合格者の平均得点率は、67%から82%の範囲にあり、受験者の平均得点率に比べ12ポイント以上高かった。大問単位で見ると、おおむねの傾向として「現代の政治（法律を含む）」と「現代社会の諸課題」の平均得点率が、「現代の経済」の平均得点率に比べて高かった。

2月5日の〔Ⅰ〕は法と経済活動の自由、〔Ⅱ〕は公害とその社会的な影響、〔Ⅲ〕は日本の選挙に関する問題であった。大問別の平均得点率に大きな相違はなかった。

2月6日の〔Ⅰ〕は国会と内閣、〔Ⅱ〕は貿易の自由化と日本の農林業、〔Ⅲ〕は冷戦に関する問題であった。大問別に平均得点率を見ると、〔Ⅰ〕は比較的平易、〔Ⅱ〕は難しく、〔Ⅲ〕は平均的であったようである。

2月7日の〔Ⅰ〕は日本国憲法と安全保障、〔Ⅱ〕は国際経済の歩み、〔Ⅲ〕は環境問題に関する問題であった。大問別に平均得点率を見ると、〔Ⅰ〕と〔Ⅱ〕は平均的、〔Ⅲ〕は難しかったようである。

2月8日の〔Ⅰ〕は財産権と企業活動、〔Ⅱ〕は貿易摩擦、〔Ⅲ〕は日本農業の動向に関する問題であった。大問別に平均得点率を見ると、〔Ⅰ〕は平易、〔Ⅱ〕は平均的、〔Ⅲ〕は比較的難しかったようである。

2月9日の〔Ⅰ〕は法の下での平等、〔Ⅱ〕は市場メカニズム、〔Ⅲ〕は途上国と国際協調に関する問題であった。大問別に平均得点率を見ると、〔Ⅰ〕が平均的、〔Ⅱ〕と〔Ⅲ〕はともに比較的平易であったようである。

2月10日の〔Ⅰ〕は新しい人権、〔Ⅱ〕は国民所得と景気変動、〔Ⅲ〕は地域経済統合に関する問題であった。大問別に平均得点率を見ると、〔Ⅰ〕は平均的、〔Ⅱ〕と〔Ⅲ〕は比較的平易であったようである。

「政治・経済」のすべての問題を通じて、(1)の出題方針と関連して、以下のことを指摘できる。

例年、「政治・経済」では、出題方針①の「正確な知識」を問うことを目的に、用語を答える問題を出題してい

る。その意図は、入学後も必要とされる広範な知識を問うだけではない。読解力を問うことも目的にしている。知識を問う問題で適切な解答を導くために、受験者は、問題文の論旨に沿って論理的に内容を理解し、最も適切な答えを導き出す力も習得する必要があるからである。大学の学修では、こうした知識と読解力を基盤にして、さらに自ら論理を構築していく能力を鍛えることになる。

出題方針②の「複数の分野」に関連した出題は、「政治・経済」の特徴をよく表すものである。社会の諸問題は、政治、法律、経済など特定の学問分野で別個に検討が進められる一方で、これら個別領域を横断する問題としても把握できる。こうした分野をまたいで問題を理解し、その問題の解決に取り組もうとするアプローチは、現代社会において強く求められている。「政治・経済」において分野横断的な出題方針を採用する理由は、多様なアプローチを孤立させるのではなく、それぞれを統合し、こうした社会の諸問題の解決に取り組もうとする人材を求めているからである。そのため、「政治・経済」を学習するうえで、受験生は政治、法律、経済それぞれの分野における事柄の内容や仕組みを深く理解することに加えて、それらの分野を横断的に、総合的に考える能力が重要となる。

(3) 受験生へのメッセージ

「正確な知識の修得」と「論旨に沿った適切な答えを導く力の育成」の二点を意識して学習に励んでいただきたい。はじめに、正確な知識の修得については、教科書の内容や社会問題について広範な分野をくまなく理解することが前提となる。そのために、ひとつひとつの事柄について、自身の言葉で説明出来ているかどうかを常に確認しながら学習を進めてほしい。次に、論旨に沿った適切な答えを導く力の育成については、文章を解析する力を蓄えるとともに、その論旨を読み解く能力を身につけることが基礎となる。この能力を身につけるために、教科書を熟読し理解を深めることを基礎としつつ、新聞やブログ記事などの長文を読み込む習慣をつけるとよいだろう。

その他、記述式の問題では、問題文中に「漢字で」という指定が特に明記されていなくても、教科書や用語集において漢字で表記されている用語や日本国憲法上の語句は、正しい漢字で解答しなければならない。また、解答を記す際に美しさにこだわりすぎる必要はないものの、判別できる正しい文字や数字等を記すことが必要である。

◆政治・経済◆ 出題の意図

102	出題の意図
[I]	法と経済活動の自由について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、法的観点と経済理論を関連付けつつ、基本的な概念等に対する理解度を問うた。
[II]	公害とその社会的な影響について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、公害政策やリサイクル等のその後の展開について、基本的な概念等に対する理解度を問うた。
[III]	日本の選挙制度について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、選挙制度そのものの仕組みにとどまらず、海外の動向も含めて基本的な概念等に対する理解度を問うた。
103	出題の意図
[I]	国会と内閣について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題も織り交ぜながら、憲法上の位置づけや制度に対する理解度を問うた。
[II]	貿易の自由化と日本の農林業について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、農林業の抱える諸問題や、政策的な対応に対する理解度を問うた。
[III]	冷戦に関する問題について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、冷戦構造が世界的に広がっていく経緯や、冷戦を説明する基礎概念等の理解度を問うた。
104	出題の意図
[I]	日本国憲法と安全保障について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、憲法と安全保障に関わる制度や基本的な概念に対する理解度を問うた。
[II]	国際経済の歩みについて、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題も織り交ぜながら、経済の発展に付随して示された経済思想や歴史事象に関わる基本的な概念等に対する理解度を問うた。
[III]	環境問題について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、環境問題に対する世界的な取り組みや、近年の新しい動向に関わる基本的な概念等の理解度を問うた。
105	出題の意図
[I]	財産権と企業活動について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、消費者問題や企業を取り巻く制度などについての、基本的な概念等に対する理解度を問うた。
[II]	貿易摩擦について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、日米貿易摩擦や国際分業体制の発展に関する基本的な概念等に対する理解度を問うた。
[III]	日本農業の動向について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題も織り交ぜながら、日本の農業を取り巻く問題や、農業を支える諸制度に関わる基本的な概念等の理解度を問うた。

106	出題の意図
〔Ⅰ〕	法の下での平等について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、人種問題、女子差別問題、労働問題を取り上げ、それらの基本的な概念等の理解度を問うた。
〔Ⅱ〕	市場メカニズムについて、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題も織り交ぜながら、経済現象を理解するために必要な基礎的な概念に対する理解度を問うた。
〔Ⅲ〕	途上国と国際協調について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題も織り交ぜながら、途上国に関連して生じる諸問題についての基本的な論点や制度に対する理解度を問うた。
107	出題の意図
〔Ⅰ〕	新しい人権について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、人権の保障に関連して新たに着目されているプライバシー権など、法の下での平等に関わる基本的な概念等に対する理解度を問うた。
〔Ⅱ〕	国民所得と景気変動について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、選択問題も織り交ぜながら、一国の経済活動を理解するために必要な基本的な概念等に対する理解度を問うた。
〔Ⅲ〕	地域経済統合について、教科書に記載されている基本的な用語の確認を中心に、正誤問題も織り交ぜながら、世界的に進展する地域統合に関わる基本的な概念等に対する理解度を問うた。